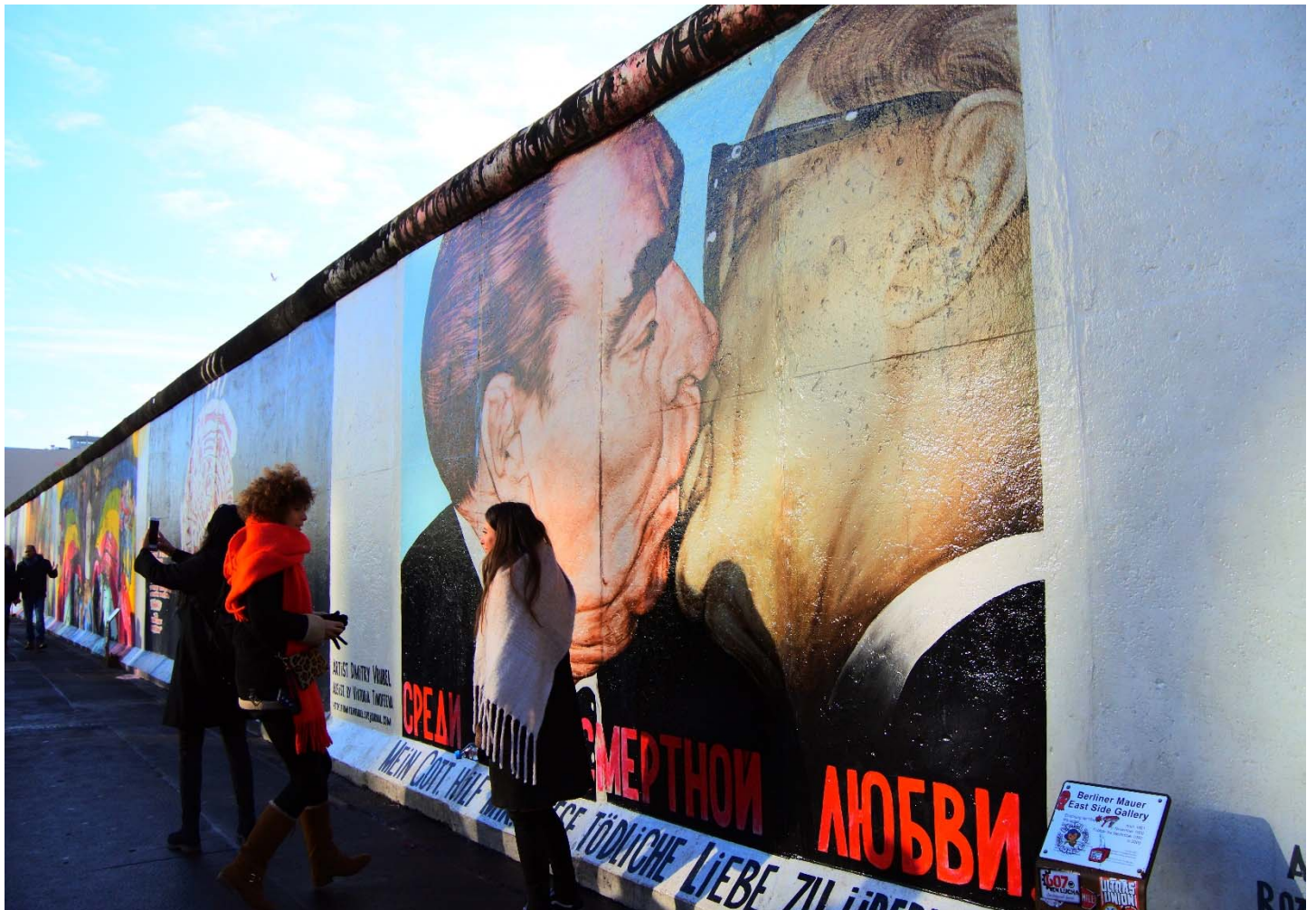




JSPS Bonn Newsletter 2017年10月~12月 (ぼんぼん時計 No.58)



(Berlin,ベルリンの壁)

目次

ピックアップニュース	p2	
① エクセレンス戦略の第一次選考が終了		
② フンボルト財団(AvH)に新たな会長が就任		
③ 学生の移動と研究に対する欧州連合 (EU) 予算の増加：ドイツ大学長会議 (HRK) 会長がその必要性について訴える		
その他のニュース	p3	
イベント活動報告	p10	
① テュービンゲン大学 International Research Funding Day に参加		
		② フンボルト財団主催ネットワークミーティングに参加
		③ 第5回ジュニアフォーラムを開催
		④ ボン大学主催日本の高等教育システム及び渡日プログラム説明会に参加
		⑤ JANET Forum2017 を開催
		⑥ JANET ワークショップを開催
		⑦ 第14回日独学術コロキウムをベルリンで開催
		センター長コラム
		p15
		ドイツの大学紹介：フライブルク大学
		p16



ピックアップニュース

エクセレンス戦略の第一次選考が終了

ドイツにおける学術研究を強化し、大学の国際的な競争力を高めるプログラムであるエクセレンス戦略に関する決定がなされた。ドイツ研究振興協会(DFG)とドイツ学術審議会(WR)による推薦に基づき、共同学術会議(GWK)により任命されたエクセレンス戦略のための専門委員会が、2017年9月27日、28日にボンで開かれ、88のプロジェクトが最終選考の対象として選ばれた。

今回の選考は今年の4月に、63の大学から提出された195のプロジェクトが対象であり、学術分野における国際的な21の専門パネルにより審査された。DFGは、連邦政府と州政府間での合意に沿ってエクセレンス・クラスターを実施する責任を持つ。

88のプロジェクトは、13州41大学から提出され、そのうち、2大学もしくは3大学間での共同プロジェクトは26ある。約40%のプロジェクトは、エクセレンス・イニシアティブによる助成を受けていたクラスターであり、60%はエクセレンス戦略のために計画されたクラスターである。

今回提出されたクラスターの3分の2が大学以外の研究機関との共同研究を予定している。多くのプロジェクトが学際的な性質のものである。選ばれたプロジェクトのうち最も多い分野は自然科学(31%)であり、工学科学(26%)、生命科学(24%)、人文科学・社会科学(19%)と続く。

第1次ドラフトを通過したプロジェクトについて、2018年2月21日までに、DFGにフルプロポーザルを提出しなければならない。提出されたフルプロポーザルは、2018年の春に国際的な専門パネルにより審査される。専門委員会と連邦政府及び州政府の研究担当大臣により構成されるエクセレンス戦略委員会により、最終的な決定が2018年9月27日に行われる予定である。

エクセレンス・クラスターへの助成は2019年1月1日に開始される予定である。助成期間は7年であるが、再申請が認められたクラスターについてはさらに7年間、助成期間が延長される。エクセレンス戦略に関する実施規定に見積もられている45から50のエクセレンス・クラスターのために、年間3億8,500万ユーロの支援が予定されており、そのうち75%が連邦政府、25%が州政府により拠出される。

エクセレンス・クラスターにおける成功がWRが実施するエクセレンス大学に申請するための必須条件となる。エクセレンス大学に選ばれるために、申請予定の大学は少なくとも2つ(共同研究の場合は3つ)のプロジェクトがエクセレンス・クラスターに選ばなければならない。申請締め切りは2018年12月10日であり、その後審査が行われ、最終決定は2019年7月19日に行われる予定である。

エリート大学への申請書の様式について、現在ボンで専門パネルによる話し合いが行われ、この申請書様式は、10月の中旬にWRのHP上で公開される予定である。

DFG: http://www.dfg.de/service/presse/pressemitteilungen/2017/pressemitteilung_nr_41/index.html

(29 Sep. 2017)

フンボルト財団(AvH)に新たな会長が就任

神経生理学者であるハンス・クリスチャン・パーペ氏が、フンボルト財団(AvH)の新たな会長として、2018年1月から就任する。彼は、二期目の会長職を終えた後に同財団を去る予定である化学者のヘルムート・シュバルツ氏の後任である。

パーペ氏はミュンスター大学で教鞭をとり、研究を行ってきた。彼は、情動行動の神経生理学的構造分野における優れた研究者の一人であり、特に、不安と不安障害、恐怖と恐怖記憶、睡眠と覚醒のプロセスに関する研究で知られている。この研究により、ゴットフリート・ヴィルヘルム・ライプニッツ賞やマックス・プランク研究賞(AvHとマックス・プランク協会により授与される)などの名誉ある賞を数多く受賞している。研究者としてだけでなく、諮問委員会や助



ピックアップニュース

言委員会のメンバーとして、ドイツの国内外で活躍しており、その活躍には、2011年から2017年までのドイツ学術審議会（WR）への参加も含まれる。WRは、ドイツの大学や学術、研究の発展に関して連邦政府や州政府に助言を行う機関であり、彼は、在任期間中に、役員会のメンバーとして学術会議の議長を務めた。また、2017年以降、ゴットフリート・ヴィルヘルム・ライプニッツ賞のドイツ研究振興協会（DFG）による選考委員会のメンバーでもある。

パーペ氏はガブリエル連邦外務大臣により任命され、2018年1月から5年間の任期が始まる。彼の任用については、国際選考委員会による推薦を受け、AvHの評議員委員会により満場一致で決定された。2018年1月18日に開かれるAvHの新年のレセプションにおいて公式に就任する予定である。

AvH: <https://www.humboldt-foundation.de/web/pressemitteilung-2017-29.html>

(25 Oct. 2017)

学生の移動と研究に対する欧州連合（EU）予算の増加：ドイツ大学長会議（HRK）会長がその必要性について訴える

11月30日、欧州議会はブリュッセルにおいて、2018年の欧州連合（EU）の予算について承認した。7月に開かれた欧州連合理事会の中で、研究費に対する5億ユーロの削減が要求されたが、議会と各国の財務省は最終的に、2018年の研究費に対する増額を決定した。2018年の拠出額は、1億1千万ユーロ増えて112億ユーロとなった。エラスムスプラスへの助成額も増加し23億ユーロとなった。

ドイツ大学長会議（HRK）のヒップラー会長はこの決定に対し、ベルリンにおいて以下のように述べた。

「これは歓迎すべき変化である。予算削減が何年も続いたが、ようやくヨーロッパの競争力強化や社会的な結びつきにとって、どれほど教育や研究、イノベーションが重要であるかが理解されてきたようだ。

しかし、現状に満足することはできない。英国のEU離脱や新たな経済的な枠組への変化が差し迫っている。EUの代表的な留学プログラムであるエラスムスプラスや、研究プログラムであるホライズン2020は、EU全体の予算の中のほんの一部しか割り当てられていない。ヨーロッパの将来にとって、これらのプログラムは必要不可欠であり、EUの予算がたとえ厳しいものであろうとも、更に強化されなければならない。

欧州委員会は、エラスムスプラスの予算の倍増など、これらの分野の予算の増加を求めることで、解決を図ろうとしている。欧州理事会や欧州議会におけるドイツ政府は、将来的な成功を推し測らなければならない。」

HRK: <https://www.hrk.de/presse/pressemitteilungen/pressemitteilung/meldung/zuwaechse-im-eu-haushalt-fuer-studierendenmobilitaet-und-forschung-hrk-praesident-staerkung-muss-fortq/>

(30 Nov. 2017)

その他のニュース

国際的な流動性を学業に定着させる

カリキュラムの中で外国滞在を取り入れるドイツの大学が益々多くなり、世界中の協定校との国際的なカリキュラムが組み込まれている。構造化されつつある国際的な流動性とその新たな発展が、ドイツ学術交流会(DAAD)の会議「国際的な流動性の統合-構造化による効果」のテーマである。この会議は2017年9月28日及び29日

にベルリンで開催され、DAADのグロートゥス副事務総長が開会の挨拶をする。

2日間に渡り、国際的なカリキュラムの構築と実施に関する講演及びワークショップがカルクショイネにおいて行われる。重点は、構造的な支援プログラム「留学・研修提携プログラム (ISAP)」、「統合的インターナ



その他のニュース

シヨナルダブル・ディグリープログラム」および「バッチェラープラス」である。

会議では、情報交換やネットワーク構築の場というだけでなく、学習・研究内容とその評価に関するプレゼンテーションや、地域ごと（米国、英国、中国）あるいはテーマごと（同窓会ネットワーク、マーケティング、ファンドレイジング）のグループによるワークショップなどの非常に広範囲なプログラムが提供される。

DAAD は、国際的なカリキュラムの構築や拡大、並びに国際的なプログラムを通しての学生と教員の流動性向上を支援する。ドイツ連邦教育研究省(BMBF)の予算により、DAAD は、外国滞在を組み込む予定のカリキュラムを構築する際に、ドイツの大学を助成する。

DAAD :

<https://www.daad.de/presse/pressemitteilungen/de/58036-auslandsmobilitaet-im-studium-verankern/?>

(28 Sep. 2017)

将来の基盤としての学術と研究のさらなる強化

フンボルト財団 (AvH) は、学術界及び産業界の 21 の機関や協会との連名にて、連邦政府による将来の研究政策に対して声明文を発表した。内容は以下のとおり。

ドイツの経済的成功は、本質的に学術システムとイノベーションシステムの強さに基づいており、現在の社会の豊かさや発展、雇用状態、社会的な統合、そして国際的な競争力の土台となっている。大学や大学以外の学術機関における基礎研究ならびに応用研究は、企業の研究開発事業と同様に、不可欠である。

近年、連邦政府と州政府、経済界、学界は、学術システムとイノベーションシステムを強化するために、数多くの取り組みを行ってきた。中でも、研究開発費が国内総生産の 3%にまで増加したことは、極めて画期的である。こうした取り組みのおかげで、ドイツは現在では、学術とイノベーションの両分野において、世界を先導する立場にある。

社会が大きく変動する現代において重要なことは、このような取り組みを保持するだけでなく、それを強化することである。そうすることによってのみ、気候変動やエネルギー転換、人口増減や専門職の人材不足といった社会的な課題を克服し、デジタル化への移行から生まれるチャンスを活かすことができる。

署名機関は、連邦政府並びに州政府に、学術とイノベーションを将来的にも高い優先順位に置くように訴え、一貫して信頼性の高い学術とイノベーション政策の象徴として、研究開発費を 2025 年度までに国内総生産の 3.5%の割合にまで増加させるという目標を支持する。

この目標を達成するにあたり、次のような措置が有用であると考えられる。

- プロジェクトの助成を補足し、研究に従事している企業に対する優遇税制の導入
- 学術協定の継続
- 中小企業に開かれたテクノロジー助成プログラムの強化
- 先端研究の強化、イノベーションの促進
- 技術と学術的知見の移転のための新たな手段の活用
- 高等専門教育と質の高い職業訓練の強化

上記の点に加えて、研究とイノベーションの場であるドイツに、新たに立案された法律がどのような影響を与えるかを考えなければならない。将来的に法制化する際に、その法律がもたらす好影響と悪影響について、検討しなければならない。

連邦政府の成長戦略の枠組みの中で、助成の重点は、将来的には、部門横断的にかつ体系的に一貫した方法で、これまで以上に確実に定められるべきである。助成プログラムの透明性や、明快なプロセス、助成活動の徹底的な実施、追跡可能な助成報告によって、関係機関による高度な受諾が達成される。

署名機関は、連邦政府および州政府に、上記の措置を次の議会の会期中に実行するよう訴える。学術の進歩は、次の世代に対して社会的な結束、安定性、豊かさや繁栄を保障する本質的な基盤である。

AvH: <https://www.humboldt-foundation.de/web/pressemitteilung-2017-25.html>

(10 Oct. 2017)

研究者がエルゼビア社の編集者を辞任

ドイツ学術機関連盟とエルゼビア社による交渉の中で、エルゼビア社の編集者や、同社の編集委員会や諮問委員会の役員を辞任する研究者が現れ始めた。それは、研究者たちの、エルゼビア社に対する抗議という意味が込められている。というのは、電子ジャーナルのアクセスに関するエルゼビア社との全国規模でのライセンス契約が不調に終わっているからである。

その他のニュース

ドイツ学術機関連盟の代表として交渉を行っているドイツ大学長会議（HRK）のヒップラー会長は、数週間のうち、上記の研究者と同様に、エルゼビア社の編集者を辞任する意向である他の研究者の名前が公表されると伝えた。

名前が明らかになる編集者の中には、ユーリッヒ研究センターのマークヴァート会長及び、マックス・プランク情報学研究所のメルホルン所長が含まれている。

背景

一年以上前から、ドイツ学術機関連盟は DEAL プロジェクトを立ち上げ、エルゼビア社、ワイリー社及びシュプリンガー・ネイチャー社と、電子ジャーナルの出版物に関する全国規模でのライセンス契約に関して交渉を続けている。将来的には、オープンアクセスでの論文出版を予定しており、誰もが自由に無料で寄稿論文を読むことが可能となる。ただし、出版の際には、一回きりだが、費用が生じる。エルゼビア社はこれまでの交渉において、DEAL プロジェクトの内容に沿う提案をしてこなかったため、交渉は当分の間中断されることになった。今までに、200 の大学や専門大学、研究機関がエルゼビア社の雑誌購読契約を解約した。

HRK: <https://www.hrk.de/presse/pressemitteilungen/pressemitteilung/meldung/wissenschaftler-legen-herausgeberschaft-von-elsevier-zeitschriften-nieder-4232/>

(12 Oct. 2017)

ビューデンベンダー氏、ドイツ国家戦略「固定観念からの解放」の後援者となる

ドイツ連邦共和国のシュタインマイアー大統領の妻であるビューデンベンダー氏が、連邦政府の国家戦略「職業と学業選択への国家協力」の後援者となった。教育界、政界、経済界、学術界が互いに協力しあい、性別による固定観念なしに職業選択を行うことを可能にする。

ドイツの職業訓練市場と、労働市場は未だに、性別により左右されており、職業の適正に関するイメージは、性別による固定観念と強く結びついている。結果として、若者は、特定の職業選択に至ることを余儀なくされ、構造的、経済的及び個人的な不利益を生み出している。連邦政府の国家戦略「職業と学業選択への国家協力」（簡潔に言えば、「固定観念からの解放」）は、性別による職業の分断とその影響を取り除くことを目標と

する。個々人の才能は、性別によらず伸ばされるべきであり、労働市場は、性別により左右されるべきではない。この国家戦略は、教育界、政界、経済界、学術界において、ジェンダーフリーの職業及び学業選択のために活動している人々を結びつけている。ビューデンベンダー氏は、「私たちは偏見のない職業選択を実施し、若者が、自らの人生とキャリアを自分自身の判断で築くよう支援しなければなりません。その際、外からの視点は、今一度、全く異なる視野を広げてくれるでしょう。」と、職業選択に際してこの国家戦略に賛同するすべての若者に訴えている。

BMBF: <https://www.bmbf.de/de/buedenbender-ist-schirmherrin-der-bundesinitiative-klischeefrei-5015.html>

(20 Oct. 2017)

ドイツ大学長会議（HRK）の副会長であるバイジーゲル氏とブルクハルト氏の再任が決定

11月14日にポツダムで開催された、ドイツ大学長会議（HRK）の総会において、現副会長であるバイジーゲル氏とブルクハルト氏の2018年11月30日までの再任が決定された。

ゲッティンゲン大学長のバイジーゲル氏は、2012年に以降副会長としてHRKの管理及びガバナンスを担当している。

ジーゲン大学の学長であるブルクハルト氏は、同じく2012年に以降副会長として教育（教員への教育含む）や学習（生涯学習含む）を担当している。

HRK: <https://www.hrk.de/presse/pressemitteilungen/pressemitteilung/meldung/hrk-vizepraesidenten-ulrike-beisiegel-und-holger-burckhart-wiedergewahlt-4248/>

(14 Nov. 2017)

ドイツ大学長会議（HRK）の総会：大学の役割としての連携と共有

11月14日に大学、経済界及び社会間での連携をテーマとして、ドイツ大学長会議（HRK）の総会がポツダムで開かれた。HRKのヒップラー会長は、「我々は意識



その他のニュース

して、頻繁に使われる『第三の使命』という言葉を使わない。というのも、大学にとって、経済界や社会との知識共有と連携は、大学の根幹である研究と教育から切り離されているものではなく、研究及び教育活動の一環と捉えているからである。このように考えてきたからこそ、これまで大学は社会と経済界をつなぎ、技術的もしくは社会的革新に貢献でき、今後もこれらの役割を果たすことができるのである。」と述べる。

HRK の決議は、経済界や社会との知識共有と連携を一体のものとして扱っている。HRK は、大学が技術移転から社会福祉サービスに至る、多くの経済及び社会領域で活動していると述べるが、このような活動を、絶え間なく続く経済界や社会との交流の一環と理解している。即ち、大学は、経済的もしくは社会的問題に取り組む中で、教育と研究を絶え間なく発展させているのである。

しかしながら、それと同時に、大学は、短期的な社会的又は経済的利益を追求する研究に集中しすぎることの危険性を警告する。そのため、高等教育における市民社会への積極的な参加を促すようなコースは、広範な専門的、方法論的な教育を補足する形で設置するべきである。

HRK: <https://www.hrk.de/presse/pressemitteilungen/pressemitteilung/meldung/hrk-mitgliederversammlung-kooperation-und-transfer-als-hochschulaufgaben-4250/>

(15 Nov. 2017)

ドイツ学術交流会 (DAAD) とドイツ大学長会議 (HRK) が発展途上国の大学運営管理者を対象とした会議を開催

2017年11月27日から28日にかけて、ベルリンにおいて、工業先進国と発展途上国出身の約130名の大学運営に携わる関係者が、大学運営に共通する課題や個別の課題、運営戦略、運営管理者としての適性についての議論を行った。その会議のタイトルは、「発展途上国における大学の地位向上—リーダーシップを発揮する人材開発戦略の貢献」であり、ドイツ学術交流会 (DAAD) とドイツ大学長会議 (HRK) による DIES プログラム (高等教育革新戦略に向けての対話) の一環として開催され

た。DIES は、発展途上国と新興工業国における大学運営の専門性を強化する研修プログラムを提供している。

グローバル・サウスにおける好意的な変化への寄与として、DIES は、すでに10年にわたって、アフリカや東南アジアにおける大学の学部長を対象とした研修プログラムを実施している。それらのプログラムは、HRK と DAAD が、オスナブリュック大学や、高等教育開発センター、フンボルト財団 (AvH) など、ドイツならびに対象地域における提携高等教育機関と共同で行っている。

会議の中で、DIES の委託を受けて行われたボストン・カレッジ国際高等教育センターによる研究が発表された。その研究は、発展途上国における、約50の大学運営管理者のための研修内容を調査したもので、中央アジアと中東を除く世界中のすべての地域が、大学運営に関する研修プログラムの提供者もしくは研修対象国として実践的に行動していることを示している。プログラムの大部分は、2000年以降に成立したが、参加者数は、依然として比較的少数であり、研修プログラムの内容は、対象となる参加者によって大きく異なっている。2001年以降、DAAD と HRK による共同運営が行われている DIES は、連邦経済協力・開発省の資金提供を受け、発展途上国における高等教育機関を支援し、大学運営管理、研究プログラムの質改善といった改革戦略を推進している。

DAAD: <https://www.daad.de/presse/pressemitteilung/en/de/59650-daad-und-hrk-veranstalten-konferenz-mit-hochschulmanagern-aus-entwicklungslaendern/?page=1&>

(27 Nov. 2017)

ドイツ研究振興協会 (DFG) が新たに15の特別研究領域プログラム (SFB) を助成

ボンでこの秋に開催された総会の中で、承認委員会の決定を受けて、ドイツ研究振興協会 (DFG) は、新たに15の特別研究領域プログラム (SFB) への助成を行う。新たな SFB には、合計1億3300万ユーロが拠出され、総額の22%が個々のプロジェクトの間接経費として充てられる予定である。新たに助成される15のプロジェクトのうち7つは、複数の地区にまたがる「トランスレギオ」(TRR) である。新しい SFB はすべて、2018年1月1日から4年間の助成を受ける。



その他のニュース

15のプロジェクトに加えて、承認委員会は、21のSFBに対し、さらなる助成期間の延長を決定した。これによって、2018年1月の時点で、DFGは計269のSFBを助成する予定である。

新たに採択されたSFBの詳細は以下の通り。(代表大学はアルファベット順。その他参加機関も併記。)

1、 代表機関：ベルリン自由大学、代表者：Prof. Dr. Martin Weinelt、その他参加機関：マルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルク

研究テーマ：「超高速スピンドYNAMIKS」
„Ultraschnelle Spindynamik“

2、 代表機関：ベルリン工科大学、代表者：Prof. Dr. Martina Löw

研究テーマ：「諸空間の再形成」 „Re-Figuration von Räumen“

3、 代表機関：ビーレフェルト大学、代表者：Prof. Dr. Oliver Krüger、その他参加機関：ヴェストファーレン・ヴィルヘルム大学ミュンスター

研究テーマ：「動物行動学、生態学、進化生物学による個別化についての新たなジニターゼー生態的地位選択、同調及びその構造 (NC3)」 „Eine neue Synthese zur Individualisation für die Verhaltensforschung, Ökologie und Evolution: Nischenwahl, Nischenkonformität, Nischenkonstruktion (NC3)“

4、 代表機関：ルール大学ボーフム、代表者：Prof. Dr. Achim von Keudell

研究テーマ：「一時的に変動する大気圧プラズマープラズマから液体、固体への変化」 „Transiente Atmosphärendruckplasmen – vom Plasma zu Flüssigkeiten zu Festkörpern“

5、 代表機関：ライン・フリードリヒ・ヴィルヘルム大学ボン、代表者：Prof. Dr. Achim von Keudell、その他参加機関：ケルン大学

研究テーマ：「アフリカの農村の未来—未来の創造と社会生態学的変容」 „Zukunft im ländlichen Afrika: Zukunft-Machen und sozial-ökologische Transformation“

6、 代表機関：ライン・フリードリヒ・ヴィルヘルム大学ボン、代表者：Prof. Dr. Sven Rady、その他参加機関：マンハイム大学

研究テーマ：「社会的な挑戦への経済学的視座—機会均等、市場規制、金融市場の安定性」 „Ökonomische Perspektiven auf gesellschaftliche

Herausforderungen: Chancengleichheit, Marktregulierung und Finanzmarktstabilität“

7、 代表機関：ブレーメン大学、代表者：Prof. Dr. Herbert Obinger

研究テーマ：「社会政策のグローバル展開のダイナミクス」 „Globale(n) Entwicklungsdynamiken von Sozialpolitik“

8、 代表機関：カッセル大学、代表者：Prof. Dr. Thomas Baumert

研究テーマ：「分子キラリティーの分析ならびに光の極限制御 (ELCH)」 „Extremes Licht zur Analyse und Kontrolle molekularer Chiralität (ELCH)“

9、 代表機関：ケルン大学、代表者：Prof. Dr. Michael Lässig

研究テーマ：「進化の予測可能性」 „Vorhersagbarkeit in der Evolution“

10、 代表機関：ヨハネス・グーテンベルク大学マインツ、代表者：Prof. Dr. Hansjörg Schild

研究テーマ：「腫瘍疾患および慢性感染症における非効率な免疫の収束メカニズムの影響の標的化」 „Gezielte Beeinflussung von konvergierenden Mechanismen ineffizienter Immunität bei Tumorerkrankungen und chronischen Infektionen“

11、 代表機関：ヴェストファーレン・ヴィルヘルム大学ミュンスター、代表者：Prof. Dr. Christian Klämbt

研究テーマ：「動的細胞のインターフェース—形成と機能」 „Dynamische zelluläre Grenzflächen: Bildung und Funktion“

12、 代表機関：レーゲンスブルク大学、代表者：Prof. Dr. Wolfgang Herr、その他参加機関：フリードリヒ・アレクサンダー大学エアランゲン=ニュルンベルク、ユリウス・マクシミリアン大学ヴュルツブルク

研究テーマ：「同種幹細胞移植後の移植片対宿主病および移植片対白血病免疫応答能の制御」 „Steuerung der Transplantat-gegen-Wirt- und Transplantat-gegen-Leukämie-Immunreaktionen nach allogener Stammzelltransplantation“

13、 代表機関：ザールランド大学、代表者：Prof. Dr. Danilo Fliser、その他参加機関：アーヘン工科大学

その他のニュース

研究テーマ：「慢性腎不全による心臓血管合併症のメカニズム」 „Mechanismen kardiovaskulärer Komplikationen der chronischen Niereninsuffizienz“

14、 代表機関：シュツットガルト大学、代表者：Prof. Dr.-Ing. Rainer Helmig

研究テーマ：「多孔質媒質における界面影響を受けたマルチフィールドプロセス—流動、輸送、変形」 „Grenzflächenbeeinflusste Mehrfeldprozesse in porösen Medien – Strömung, Transport und Deformation“

15、 代表機関：ユリウス・マクシミリアン大学ヴェルツブルク、代表者：Prof. Dr. Jürgen Groll、その他参加機関：バイロイト大学、フリードリヒ・アレクサンダー大学エアランゲン=ニュルンベルク

研究テーマ：「バイオファブリケーションの基礎から機能的組織モデルに至るまで」 „Von den Grundlagen der Biofabrikation zu funktionalen Gewebemodellen“

DFG:http://www.dfg.de/service/presse/pressemitteilungen/2017/pressemitteilung_nr_48/index.html

(27 Nov. 2017)

ドイツ大学長会議 (HRK) と各州文部大臣会議 (KMK) による学術研究の維持と発展に関する対談

各州文部大臣会議(KMK)とドイツ大学長会議(HRK)の会長は、今年の特対談の中で、学術と高等教育に関連する様々な時事問題について議論した。そこでは、とりわけ小規模学科の意義と今後の展望に関わる集中的な意見交換がなされた。両会長は、12月7日に公表された共同声明の中で、これらの小規模学科を、今後の発展のためにより強固に支援していくことを発表した。

小規模学科は、専門的で特殊な能力の習得には不可欠であり、文化的遺産の維持にも貢献し、さらに、ドイツの大学を国際的にも特徴づけ、ネットワーク構築を促進するものである。こうした背景から、連邦教育研究省(BMBF)と、ラインラント・プファルツ州の教育・学術・継続教育・文化省の助成を受け、ヨハネス・グーテンベルク大学マンイツに、これらの学科の発展を観察し、分析するための研究部門が設置された。州政府と

HRK に加盟する大学は、この研究部門を維持するとともに、これらの学科に関わる決定の際には、他の州における専門家の助言を活かす努力をしている。

KMK と HRK はまた、ヨーロッパにおいてもこのテーマについて活動している。HRK はすでに長期に渡って会談を行い、そこでフランスやポーランドといった国々もこのテーマに取り組もうとしていると指摘する。この会談によって、国家の枠組みを超えた考察が可能となり、相乗的な効果が期待される。

HRK:<https://www.hrk.de/presse/pressemitteilungen/pressemitteilung/meldung/kleine-faecher-hrk-und-kmk-wollen-erhalt-und-entwicklung-foerdern-4273/>

(07 Dec. 2017)

学術文献への自由なアクセス

研究者たちは、素早く簡単に学術論文をインターネット上で無料で閲覧できるオープンアクセスを通じて、自分の分野内外の大勢の利用者と繋がることできる。インターネット上の学術論文への自由なアクセスを可能とするために、論文の作成や出版、利用に関する新しい構想が必要となる。連邦教育研究省(BMBF)はドイツの学術におけるオープンアクセスの使用を支援し、そのために選ばれた20のプロジェクトが、オープンアクセスによる出版物のより良い作成方法や普及方法について取り組む。BMBFは、これと同時にオープンアクセス戦略のための新たな措置をとり、最長24ヶ月までの学際的プロジェクトを、計約550万ユーロで支援する。

多くの研究者たちは、文献を自由に閲覧できるこのアイデアに対して肯定的であるが、自分の寄稿論文がインターネットを介して、自由にアクセスされることには消極的である。

大学や出版社、学術機関によって多くのプロジェクトが支援される。これには著者たちが、オープンアクセスによって創造性のある論文を発表しやすくすると共に、自分たちの論文を見つけられやすくするというプロジェクトが含まれる。その中には、オープンアクセスを利用して治療学のまだ新しい専門領域に取り組むプロジェクトや、ブロックチェーン技術とオープンアクセスを組み合わせるプロジェクトといったプロジェクトもある。

インターネット経由で学術論文に対して自由にアクセスできるオープンアクセスというアイデアは、学術界から生まれた考えである。研究者たちは、自分たちの論文



その他のニュース

を無料で読み、共有することを可能とする契約のもとで発表する。連邦政府は、デジタル・アジェンダ 2014 – 2017 において、学術のより良い情報の拡散のためのツールとして、オープンアクセスを挙げた。BMBF は、2016 年 9 月から、オープンアクセス戦略を開始した。BMBF: <https://www.bmbf.de/de/freier-zugang-zu-wissenschaftlicher-literatur-5270.html>

(12 Dec. 2017)

ドイツ、フランス両国による気候、エネルギー、地球システム分野の研究助成プログラムに各国から多数の応募

ドイツ、フランス両国による気候、エネルギー、地球システム研究分野を対象とした「地球を再び偉大なものに」という、パリ協定目標達成に向けた新たな研究助成プログラムの一次選考がドイツで行われ、全 5 大陸の約 70 ヶ国の研究者からの応募があった。ドイツ側では、ドイツ学術交流会 (DAAD) が、今回の連邦教育研究省 (BMBF) による助成プログラムの担当機関である。

一次選考では、23 ヶ国から 62 人の研究者が選ばれた。これらの研究者は、数日中に連絡を受け、二次選考のために、ドイツの受け入れ研究機関と共同で今回の技術革新的なプログラムに対する最終申請書類を提出することになる。

パリ協定の中で、緊急の対応が必要なテーマの幅は広く、エネルギー貯蔵の新たな手法の開発から、人間の社会的行動による気候への影響についての研究、地球温暖化の農業への影響、自然の中での相互作用に対するよりよい理解、地震予知改善の為に新測定方法にまで至る。

現在特に米国や英国で活動しているドイツ人研究者の他、多くのアメリカ人研究者も応募し、オーストラリア、カナダ、フランス、ブラジル、インドネシア、中国からの研究者がこれに続く。今回のプログラムの中で、ジュニアおよびシニア研究グループは、(受け入れ研究機関の負担分も含めて) 100 万から 150 万ユーロ規模の予算で計画を立てることが可能となる。提出期限は 2018 年 2 月 15 日である。

ドイツ、フランス両国による気候、エネルギー、地球システム分野の研究助成プログラム「地球を再び偉大なものに」

このプログラムは、フランス大統領による発案であり、BMBF とフランスの高等教育・研究・イノベーション省 (MESRI) が担当する。このプログラムにより、外国で活動する研究者は、自分が選択するドイツあるいはフランスの研究機関に、気候関連の研究グループを設置することが可能となる。このプログラムは、米国のパリ協定離脱表明を受けて、気候保護目標達成に向けた努力を継続することを表明するものである。ドイツでは DAAD が、2022 年まで総計で 1,500 万ユーロの予算を受けプログラム実行の責任を負う。フランスにおいても、ドイツと同等のプログラム内容であり、まず 18 のプロジェクト申請が認定されたところである。

DAAD: [https://www.daad.de/presse/pressemitteilung/en/de/60172-deutsch-franzoesisches-foerderprogramm-fuer-klima-energie-und-erdsystemforschung-findet-grosse-internationale-resonanz/?](https://www.daad.de/presse/pressemitteilung/en/de/60172-deutsch-franzoesisches-foerderprogramm-fuer-klima-energie-und-erdsystemforschung-findet-grosse-internationale-resonanz/)

(12 Dec. 2017)

研究不正：文書による戒告と二年間の応募資格の停止

ドイツ最大の研究助成機関であり、学術に関する中心的な自治機関であるドイツ研究振興協会 (DFG) は、ボンにおいて、老年学者でありゴットフリート・ヴィルヘルム・ライプニッツ賞受賞者であるカール・レーンハルト・ルドルフ教授に対し、研究不正に関する DFG の取扱手続規定に則って、「文書による戒告」を発し、

「DFG の助成金への二年間の応募資格の停止」を課した。この際、DFG の協議会は、研究不正調査委員会の提言に従った。

ある論文におけるデータ改ざんの告発を受けて、DFG は 2016 年に、最終著者であった当該研究者への調査を開始した。DFG の調査が一時中断されたのと同時に、ライプニッツ学術連合も監査を実施した。ライプニッツ学術連合の理事会は、当該研究者に対する研究不正の確定と複数の措置をもって、2017 年 6 月にこの手続きを完了させた。2017 年 6 月の時点ですでに、当該研究者への DFG の調査手続きは完了していた。この際、研究不正調査委員会は、ライプニッツ学術連合による調査の最終報告書と、研究者個人への聴問会での内容に基づき、DFG の助成を受けた計三点の出版物の中に誤った図像が掲載されていたとの結論に達した。当該研究者

その他のニュース

は、これらの出版物の最終著者もしくは責任著者であり、調査において本人が認めているように、図像の誤りを認識することが可能であったし、認識すべきであった。

それゆえ、調査委員会は DFG に、研究不正に関する DFG の取扱手続規定に則って適切かつ妥当な措置として「文書による戒告」と「二年間の応募資格の停止」を提言し、DFG の協議会によって決定された。「これにより、当該研究者の怠慢は、適切に対処されることになるだろう」と、調査委員長である DFG のツヴォニック事務総長は、協議会の決議後に述べた。ツヴォニック事務総長が強調したように、問題となった出版物は、不正なデータに基づいたものではなく、また、2009 年に当該研究者の基礎研究を称えて贈られた、DFG のゴットフリート・ヴィルヘルム・ライプニッツ賞授与との関

連はない。当該の三点の出版物は、受賞後に出版された。

DFG: http://www.dfg.de/service/presse/pressemitteilungen/2017/pressemitteilung_nr_54/index.html

(15 Dec. 2017)

イベント活動報告

チュービンゲン大学 International Research Funding Day に参加

日程： 2017 年 10 月 10 日（火）

場所： チュービンゲン大学（Eberhard Karls Universität Tübingen）

チュービンゲン大学主催により、国際研究助成に関する説明会が 10 月 10 日に同大学にて開催され、本センターから Schulze 職員及び半田国際協力員が参加した。本説明会は、ドイツで研究活動を行う外国人研究者を主な対象とし、フンボルト財団（AvH）、ドイツ学術交流会（DAAD）、ドイツ研究振興協会（DFG）などのドイツの主要な学術支援機関が研究助成プログラムについてのプレゼンテーションを行った。

本センターは、会場にブースを構え、日本における研究活動に関心を持つ来場者たちに本会のプログラムについて紹介した。日本での研究を既に具体的に計画している来場者もあり、本会のプログラムを通じて学術的な交流が促進されることが期待される。



参考 URL : <http://www.uni-tuebingen.de/en/international/research/research-alumni/international-research-funding-day.html>

フンボルト財団主催ネットワークミーティングに参加

日程： 2017 年 10 月 18 日（水）

場所： ビーレフェルト大学（Universität Bielefeld）

イベント活動報告

フンボルト財団 (AvH) 主催による、同財団の奨学生のためのネットワークミーティングが 10 月 18 日から 20 日にかけて、ビーレフェルト大学にて開催された。AvH は、本会の対応機関のひとつであり、本会と同様に研究者の海外派遣を支援している機関である。このネットワークミーティングは、同財団から支援を受けて全世界で活躍する研究者のネットワーク構築のためのイベントとして毎年開催されているものである。初日の 10 月 18 日には、ビーレフェルト大学長による挨拶とビーレフェルト大学の紹介の後、AvH 事務局長から同財団の概要と活動紹介が行われ、引き続いてビーレフェルト大学 Armin Gölzhäuser 教授から“Microscopy and Nanofabrication with Helium Ions”と題した講演が行われた。講演後は、各奨学生の出身地域ごとのグループで部屋に分かれ、情報交換や、質疑応答が活発に行われた。日本を含むアジア圏を出身地とするグループにおいては、AvH による奨学金制度の詳細な内容について AvH のスタッフによるアドバイスを受けるよい機会にもなっていた。



第 5 回ジュニアフォーラムを開催



日時：2017 年 11 月 11 日 (土)

場所：シュツットガルト大学キャンパスゲストホテル

ドイツ語圏日本学術振興会研究者同窓会 (German JSPS Club) との共催で第 5 回ジュニアフォーラムをシュツットガルトにて開催した。本イベントは、JSPS フェローシッププログラム (外国人特別研究員およびサマープログラム) により日本に滞在した研究者を招待し、シニアと若手の研究者が日本での研究経験とキャリア形成について体験談を語り意見交換すること、さらに、若手研究者の同窓会加入促進を目的としている。

まずは、小平センター長、同窓会長の Prof. Dr. Heinrich Menkhaus による挨拶に続き、本年度のサマープログラム及び外国人特別研究員 (欧米短期) で日本にて研究活動を行った出席者による日本での体験談が発表された。その後、シニア研究者 (マックスプランク研究所の Dr. Andreas Rost、ロバート・ボッシュ社の Dr. Kay Nottmeyer) により、過去の日本滞在経験やその経験をどのようにその後の研究活動やキャリアパスに活かしてきたかについての発表が

イベント活動報告

行われた。引き続き、ドイツ語圏日本学術振興会研究者同窓会による同窓会活動の紹介と出口副センター長による JSPS フェローシッププログラムの紹介、更にそれぞれの発表に対する質疑応答が行われた。最後に小平センター長による閉会のあいさつによって盛況のうちに終了した。

本イベントでは、5月に行われたサマープログラムの渡日前オリエンテーションにおいて顔を合わせていた参加者も多く、コーヒブレイクや夕食会の際にもお互いの日本での体験談を熱心に語り合っていた。若手研究者からシニア研究者まで幅広いステージの研究者が集合し、質疑応答時やコーヒブレイク中に意見交換をすることで今後のキャリア形成や日独交流について考える良い機会となり、有意義なイベントだったとの声が多く寄せられた。



ボン大学主催日本の高等教育システム及び渡日プログラム説明会に参加

日時：2017年11月14日（火）

場所：ボン大学（Universität Bonn）

ボン大学インターナショナルオフィス主催による、日本の高等教育システム及び渡日プログラム説明会が11月14日にボン大学にて開催され、本センターから小平センター長及び出口副センター長が出席した。本説明会では、小平センター長が日本の高等教育システム及び研究概況について、出口副センター長が本会の国際交流事業についてプレゼンテーションを行った。その他には、ドイツ学術交流会（DAAD）の Dr. Holger Finken が DAAD のプログラムについて、ドイツ航空宇宙センターでアジアとの国際協カプログラムを担当する Dr. Sabine Puch がドイツ連邦教育研究省（BMBF）の研究協力やファンディングの機会について説明した。当日はボン大学の関係者だけではなく、ノルトライン・ヴェストファーレン州の他大学のインターナショナルオフィスの関係者なども含め約60名が集まり、休憩時には参加者がプレゼンテーションでの紹介内容についての詳細を講演者に対して活発に質問する様子が見られた。



JANET Forum2017 を開催

日時：2017年11月23日（木）

場所：フライブルク大学（Albert-Ludwigs-Universität Freiburg）



イベント活動報告

JANET Forum 2017 が、11月23日(木)、名古屋大学とドイツ・フライブルク大学共催・JSPS 在欧 4 研究連絡センターの協力により、フライブルク大学において開催された。

JANET(Japan Academic Network in Europe)とは、欧州にオフィス等を持つ、あるいは欧州で活動する日本の大学・学術機関等が連携し、合同で欧州における存在感を高め、協働して情報共有・交流を図ることを目的として2015年11月に設立されたネットワークである。第2回目となる本フォーラムには、日本のメンバー機関のうち15機関の関係者が、また欧州の7大学・学術機関の関係者が集まり開催され、全体の参加者は70名以上にのぼった。

初めに、主催大学のシーバーフライブルク大学長及び松尾名大総長があいさつを行い、続いてバーデン＝ヴュルテンベルク州研究・文化省のウルフ氏が来賓祝辞を述べた。続いて、学生交流・ジョイントディグリー・研究交流・ライン川上流地域での研究教育協力・研究助成事業のテーマで、参加大学や学術機関からの事例紹介及びパネルディスカッションが行われた。パネルディスカッションでは会場からの質問が相次ぎ、活発な意見交換が行われた。

来年度は11月にフランス・国立応用科学院リヨン校において、東北大学と国立応用科学院リヨン校との共催により開催される予定である。



JANET ワークショップを開催

日時：2017年11月24日(金)ー25日(土)

場所：CEEJA (アルザス・欧州日本学研究所)

第2回 JANET Forum の後、ドイツ・フライブルクから、フランス・アルザス地方にある CEEJA (アルザス・欧州日本学研究所) に移動し、JANET メンバー機関関係者を対象とした1泊2日のワークショップ「国際展開の推進に向けた海外拠点担当者交流」が開催された。この催しには、JANET に参加する大学・学術機関等から合計で34名が参加し、「海外拠点活動情報交換」、「国際連携推進のための海外拠点活用」という2つの分科会に分かれ、事前のアンケート調査でもっとも興味があるとされたトピックスを中心に討論が繰り広げられた。

1日目の分科会では、各機関が共通して抱える問題点がそれぞれ紹介され、それらの問題を中心に議論と情報交換が行われた。1泊2日のワークショップの間に参加者たちの親密度も増し、2日目の最終発表ではより活発な意見交換が行われ、今後は各海外拠点が JANET のネットワークを利用して広範な交流や柔軟な対応を模索していくことが重要であるとまとめられた。今回のワークショップを通して、各拠点間の連携が進み、日本の大学・研究機関の国際化が前進することが期待される。



イベント活動報告

第 14 回日独学術コロキウムをベルリンで開催

日時：2017年11月30日（木）－12月1日（金）

場所：ベルリン日独センター

本センターは、2017年11月30日および12月1日の2日間、ベルリン日独センターとの共催、フリードリヒ・エーベルト財団の協力により、第14回日独学術コロキウムを開催した。今回は日本とドイツだけでなく韓国の専門家も招き、それぞれの国の現状及び課題について議論が行われた。

1日目は、「Democracy without Equality?」のタイトルのもと、公開シンポジウムとして開催し、来場者は100名超であった。小平センター長を含む日独双方の主催機関代表者からの挨拶及びオーガナイザーである前みち子教授（Heinrich Heine University Düsseldorf）からのイントロダクションにより開始されたシンポジウムは、1）男女共同参画に関する各国の政策、2）男女共同参画、多様性とグローバル時代における働き方、3）男女共同参画と多様性の未来というテーマで、3つのセッションが行われ、各国の専門家から報告が行われた。これに続いてパネルディスカッションが行われた。

2日目は、「Equal Participation and Diversity」のタイトルのもとにコロキウムを開催し、3国の専門家による活発な議論が行われた。なお、この日は一般公開の形をとらず、参加者は約40名であった。2日目は、1）男女共同参画と多様性に関する革新的な政策、2）男女共同参画とワークライフバランスを確保するための新しい枠組み、3）参加型社会への道というテーマの3つのセッションが行われ、各国の現状についての具体的な事例報告と討論が行われた。

本コロキウムでの報告は、男女共同参画の様々な側面－女性役員・管理職の増加、女性の働き方、ワークライフバランス、男性の働き方等－についての分野横断的な議論につながった。日本、ドイツ、韓国のいずれの国においても男女共同参画に関する課題は依然として残されていることが確認された。本コロキウムをきっかけとして、男女共同参画と多様性に関する日・独・韓による更なる学術交流が期待される。



(写真提供 © ベルリン日独センター)



センター長雑感

もう半世紀も前の話で恐縮だが、私は東京大学で修士課程を終えた後、ドイツ政府の留学生としてキール大学理論物理学研究所の A.ウンゼルト先生の下で 3 年間学び、理学博士号を授かった。学位論文は国際誌に発表され、口頭試験の Major が物理学、二つの Minor が天文学と数学だった。帰国して東京大学に就職する段階で、ドイツの学位は給与加算資格として認められていないことが判明し、新たに 3 年かけて天文学研究の論文を仕上げ国内誌に発表、東京大学から二つ目の博士号を取得した。ドイツで理論物理学、日本で天文学を修めたことで、その後の国際的な天体物理学者への道が拓けた。当時は、二つ以上の学位を取得するには、それぞれの課程を別々に修めるので、長期にわたって履修する必要があった。

最近では新たな研究分野の場合、複数の既存分野にまたがる履修が必要になることも多く、また、職業的にも「工学と経営学」「政治学と経済学」「情報学と医学」「言語学と社会学」のような複合履修をした人材が必要になってきた。欧米では大分前から同じ大学の異なる特定 2 専攻で並行履修を行える制度を導入し、単一専攻履修より長めの一定履修期間後には、同時に二つの学士号や修士号を認定授与するようになった。この制度は近隣の専門大学間にも拡張され、更には同一言語圏の離れた地域に在る大学間でも、特徴ある専攻同士が協定を結んで並行履修を可能とする制度に拡大された。

ヨーロッパ連合では将来のヨーロッパを担える人材の育成に向けて、国境・言語圏を跨る大学間での二重学位制度の導入を推奨している。日本の大学でもグローバル化時代に活躍できる人材の育成を目指して、欧米の大学との間で並行履修による二重学位取得のための協定を結ぶところが多くなった。日・欧米間の二重学位制度の実施に当たっては、学生にはかなり纏まった履修期間の外国滞在が求められるので、その制度設計には種々の工夫が求められるだろう。諸統計によれば、「大学国際化」の波に乗って日本から外国に出る学生・研究者の数は年々増え続けているが、長期滞在者の数は横這いか減少気味である。日・欧米間二重学位制度の多くの場合にも、短期滞在の組み合わせを活用して設計されている可能性がある。我が国とは文化的背景が大きく異なる欧州との間での二重学位制度において、本来意図するような実を上げるためには、どのような制度設計が有効なのだろうか、行方を見守っていきたい。

学術外交の現場を担う JSPS センターには、一層の努力と工夫が求められる時代が来そうな予感がする。

(こだいら・けいいち 2017 年 12 月 21 日)

今後のイベント等

4 月 20 日 (金) ~21 日 (土)	日独学術シンポジウム (フランクフルト)
5 月 9 日 (水)	サマープログラムオリエンテーション (ボン)
6 月 8 日 (金)	平成 30 年度採用海外特別研究員オリエンテーションおよびキャリアフォーラム (ボン)



ドイツの大学紹介：フライブルク大学

フライブルク大学は、バーデン・ヴュルテンベルク州に位置する総合大学で 1457 年に創立された歴史ある大学。大学があるフライブルクは、フランスとの国境に近く、近年では環境に配慮したまちづくりを行い、グリーンシティとしても有名である。

神学、法学など 11 の学部があり、2017 年の学生数は、学部生だけでも 25,439 人、留学生は 4,339 人である。名古屋大学や桃山学院大学など、日本の大学とも大学間協定を結んでおり、国際交流に力を入れている。哲学者であるマルティン・ハイデッガーをはじめとする多くの著名人やノーベル賞受賞者も輩出しており、学術分野において優れていることが条件となるヨーロッパ研究大学連盟に加盟している。2007 年から、エクセレンス・イニシアティブに採択されている。

※ いずれも同大ホームページ (<https://www.uni-freiburg.de/universitaet/portrait/universitaet-in-zahlen>) で公表されている数値から引用。

国際協力員コラム

Alles sind immer spät! ドイツ語学校に通い、覚えたての単語で、私が初めてドイツ人に伝えた文句である。私が伝えたい意味は「ドイツの乗り物はどれでも、いつも遅れる!」である。

私にとってのドイツ滞在は人生で 3 度目。1 度目は中学生時代に 1 か月ほどブレーメンに、2 度目は大学生の時の卒業旅行でロマンティック街道に。当時はジャーマンレイルパスを駆使し、列車でドイツ国内を周遊したが列車が遅れた記憶などなかった。ガイドブックにもドイツの列車は、正確で清潔と書いてあり、自分でもそう思っていた。すべての地域がそうではなく、どれほど甘かったかをボンに赴任して知らされることとなった。

語学学校に通うための地下鉄は原因不明で地下通路で止まり、長距離列車は遅れてくるのが当たり前。空港に行くための列車は遅れ、さらに飛行機も遅れ、全ての予定が狂う。ドイツ列車遅延の洗礼を浴び、最近では「乗り換え時間は少なくとも 15 分以上、とにかく乗り換え回数の少ないルートを選ぶ」が鉄則となった。待つことが嫌いな関西人にとってこの遅れは思っている以上にストレスであり、その怒りをぶつけたのが上記の文句である。そのドイツ人曰く、ボンがあるノルトライン＝ヴェストファーレン州は特に遅れがちであり、10 年前から変わらず遅れているとのこと。

しかし、一方でドイツ人はとても時間に正確である。ボンにおいてもそれは正しく、待ち合わせに早く来ることはあっても、遅れてくる人はめったにいない。いったい彼らは、どれだけ予定より早く家を出発しているのだろう。その時間の正確さを求める気持ちがあるならば、少しでも乗り物の遅延に対する解決に目を向けてほしいものである。

(切畑国際協力員)

日本学術振興会ボン研究連絡センター

JSPS Bonn Office

Wissenschaftszentrum

Ahrstrasse 58, D-53175 Bonn (事務所住所)

Postfach 20 14 48, D-53144 Bonn (郵便物用)

Tel. +49(0)228-375050

Fax +49(0)228-957777

www.jsps-bonn.de